

受験勉強は何のためにするのか

—受験は手段、目的は希望校に入学して勉強するため—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 放送をお聴きの受験生を持つ保護者の方にお願ひがありますので、今日はその話から始めさせていただきます。私はコーヒーが好きなので、時間をみつけてはいろいろな原稿を書くために喫茶店に行きます。先日も喫茶店にいましたら、隣の席に親子連れとその親戚の方がいらっしやっていて、近くだったためにその方たちのお話が聞こえてしまいました。どのようなお話をしていたかというところ、お子さんはおそらく中学3年生ではないかと思いますが、その方に向かって両親と親戚の方が「もう中学3年生だからしっかりと勉強するように」、「もう間がないので、このようなことでは大変だよ」と話していました。私はそれを聞いて、「そうか。ご両親や親戚の方は随分ご心配なのだな。それを受験生の方にお伝えしているのだな」と思いました。子どもを思っていることですが、受験生にとっては辛い話だなと思って聞いていました。
3. ただ、そのあとに問題だなと思う発言が親戚の方からありました。親戚の方は、「高校に行ったら勉強しなくてもよいのだから、とにかく今は一所懸命に勉強するように」と言っていました。そして、「高校が終わったあとに大学や専門学校などに行くのか」と聞き、そのお子さんが「行きたい」と答えると、さきほどの親戚の方は「高校3年生になったら、そのときだけ一所懸命に勉強すればいい。大学や短期大学、専門学校に入学できたら、そのあとは遊べばいいんだから」と言っていました。

私は、それを聞いて本当に驚きました。中学3年生や高校3年生の皆さんは入試に向けて一所懸命に勉強していますので、それを励ますことは差し支えないと思います。問題なのは、保護者や親戚の方が中学3年生の方に「今だけ勉強すればいい。高校に行ったら思いっきり遊ぶように」と言ったり、高校3年生になったら「受験生なのだからそのときだけ勉強するように。大学や短期大学、専門学校に入ったら、そのあとは遊べばいい。勉強はしなくていいんだ」と口走ったりすることです。そのようなことを言ってしまうと、そちらの発言のほうがお子さんたちの耳に残ってしまい、せっかく努力をして難しい入学試験に合格して高校や大学などに進学しても、入学後、あまり勉強しなくなります。本当に遊んでしまっただけで、本来の勉強が疎かになってしまうことがあります。お子さんたちを励ましていただくのは有難いのですが、お子さんたちにとって余計なこと、教育の阻害となるような為にならない話はあまりしないほうがよいと思います。これはぜひお願いいたします。
4. 受験勉強が辛いのはわかりますが、受験勉強中に受験生が考えないほうがよいことは、入試に合格して進学したら遊べるだけ遊ぼうと考えることです。一方、保護者や親戚の方が避けるべきこと

は、今は辛い受験勉強をしているのだから、合格を果たしたあとは好きなだけ遊べばいいとお子さんに伝えることです。代わりに、リラックスの仕方を考えて教えていただければ有難いと思います。

5. それとは逆に、受験生の方にぜひやっていただきたいことは、何のために高校や大学などに進学するのか・進学して何をするのか・進学した学校を卒業したあとはどうするのか・社会に出てからは何のために働くのか・生涯に渡ってどのような社会的な活動をしたらよいのか・どのような人生を歩んだらよいのかということをお子さんのこととして真剣に考えることです。また、保護者や親戚の方は、これらについて真剣に考えることをお子さんたちに勧めていただきたいと思います。これらの努力が受験生としての自覚を持つことに繋（つな）がり、自覚が元になって充実した勉強ができると思うからです。受験勉強は、自覚を持った上で本格的に立ち向かうことが大事ではないかと思えます。
6. 高校入試や大学入試は既に始まっているところもあり、これからのところもありますが、受験生の皆さんに私が一番言いたいことは、高校に入学してからも、また、大学や短期大学、専門学校に入学してからも、今やっているような真剣な態度で在学中ずっと勉強していただきたいということです。入学試験の直前までは一所懸命に受験勉強に励んだのに、入学試験が終わったあとはさっぱり勉強しないので高校でよい成績が取れず、その結果希望する大学などに進学を果たせない方が高校生の中には数多く存在します。また、せっかく大学や短期大学、専門学校に入ってもあまり勉強しないためにより成績が取れず、その結果、就職が大変になる方もたくさんいます。ですから、せめて中学3年生・高校3年生の方々に放送をお聴きの皆様には、受験勉強中は自覚を持って勉強し、上の学校に入学してからも「自分の未来は自分で切り開く」ために、入学試験の勉強をしたときと同じような真剣さで一所懸命に勉強に励んでいただきたいと思います。
7. 私は、一所懸命という字が非常に好きです。「いっしょ(う)けんめい」には2つの書き方があります。一生(一つ生きる)という書き方もありますが、私は一つの所で命を懸けるくらい熱心に物事に取り組むという意味で、一所(一つの所)という字を使うのが好きです。これは昔から使われている字だと思いますが、受験勉強中は一つの所で命を懸けるくらい熱心に物事に取り組むという意気込みで勉強してきたのですから、中学校を卒業して高校に行っても、高校が終わって大学に行っても、それと同じような態度で勉強していただければと思います。
8. ただ、合格したあとは受験勉強中とは違いますから、一日中ずっと勉強したり張り詰めた気持ちで勉強したりすることはしなくてもよいと思います。しかし、心持ちだけは今と同じように持って勉強していただければ有難いと思います。
9. 最後にお伝えしたいことが一つあります。受験勉強として今やっている学習内容の中で、皆様のお役に立たないものは一つもありません。中学校の勉強はすべて高校で役に立ちます。高校の勉強はすべて大学で役に立ちますし、社会でも役に立ちます。学校で勉強している内容で役に立たないものは一つもないので、体系的な知識を確実に「理解」「定着」させて自分のものにする。そのようなつもりで、受験勉強に励んでいただければ有難いと思います。今の勉強は将来必ず役に立つ、一生役に立つと確信します。どうか頑張ってください。

— 2013年6月12日加筆・訂正、林明夫 —